

祐善寺だより

第25号

発行日
2010年10月15日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



『二度とない
人生だから』

二度とない人生だから

一輪の花にも

無限の愛を

そそいでゆこう

一羽の鳥の声にも

無心の耳を

かたむけてゆこう

坂村真民

法句に憶う

住職 岡崎 賢

私たちは、自らの生をどう捉えているだろうか？いや、大半の人は、自らの生について、特段、考えていないと答えるでしょう。「生」は当たり前。生きてるのは当たり前、になってしまっているのではないのでしょうか。

どんなに歳を重ねても、いつまでも生き続ける、と思っている。どんなに歳を重ねて、いかに老いぼれて生きていても、自らの死ぬことには目をふさいでしまって生きている。人の死には平気で向き合っても、自分の死には背を向けている。それが、私たちの生きざまではないのでしょうか？

私たちの「肉体」は、確かに、皆、生きている。しかし、それは、ただ単に肉体としての生が生きているだけなのではないのでしょうか。本当に、人間として生きているという感動を、どこで掴むことができるのでしょうか。

よくよく考えてみますと、私たち人間は、自らの意思のままに生きている、と錯覚してはいないでしょうか？残念なことには、私たちは、自らの意思のままに生きることは、何一つできないのです。第一に、呼吸そのものが、自らの意思でしているものではないことに気が付くでしょう。全ては、大いなる

はからいの中で、生かされて生きているのです。大いなる力に包まれて、生かさせていただいているのです。この大いなる力こそ、「本願」と呼ばれるのであります。私たちは、本願他力の大きいなる慈悲に包まれて、人の世を生かさせていただいていることに気が付いていないのです。だから、自らの生に感謝して生きることができなくなってしまうのです。

「二度とない人生」なんて、考えられない。自分の人生は、永遠であると錯覚しているからです。だから、どんなに横暴なことも、どんなに残虐なことも、どんなに人が困ることも、お構いなしにやめようとはしないのです。私たちの生が、二度とないものであつて、その生そのものが本願他力の大きいなる慈悲に包まれて生かされているものであることに気が付いたとき、私たちは、一輪の花にも、一羽の鳥にも心を通わせることができるのです。

どんなに物質的に豊かな生活をしていても、生きていることに感動せず、不平不満だらけの生活を続け、死には背を向けることだけを考える生活が、本当に幸せだと言えるのでしょうか。

祐善寺 納涼の集い 開催される!

七月二十四日(土曜日)午後三時から、祐善寺本堂、境内一円において第一回目の「祐善寺納涼の集い」が開催されました。この集いは、お寺の興隆を図るにはどのような事をすればいいのかと、数年前から役員会等を通じて色々と考え出した事柄の一つです。

当日の集いには、おかげさまで七十名近い多くの方々のご参加をいただき、嬉しく思うと共に元気づけられました。年を重ねた者、若者、子供が集い楽しい一時を共に過ごす事ができました事を有難く思いました。この日は、蝉がジージーと鳴く暑い暑い夏の日でしたが、雨を降る心配をしなくて良かったと思えば暑さなど吹っ飛んでしまいました。

「祐善寺納涼の集い」のメニューは、お子さまを中心にした正信偈お勤め、紙芝居、バーベキュー、流しそうめん大会、すいか割り、ビンゴ

大会、合唱でした。正信偈お勤めなど、楽しい中にも尊い心が組み込まれていて背筋がピンとするのは、大人だけではなかつたと感じました。

笑顔いっぱい、笑い声いっぱい、お腹いっぱい、の楽しい集いとなりましたのも、若者の実行委員の方々のパワーのお陰です。ありがとうございました。額の大粒の汗はキラキラと輝いていました。心を合わせ、力を合わせ一生懸命に取り組む事の大切さを学びました。「祐善寺納涼の集い」に参加してくださいました皆様、都合で参加で



「納涼の集い」は本堂での正信偈おつとめから



お子さんがスイカ割りに挑戦!!



バーベキューのコーナーも大にぎわい

きなかつた皆様、また祐善寺でお会いしましょう。その日を楽しみにしています。(K)

平成22年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互つて護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相統講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
(〇〇七七〇一九一三〇七二二)
- ・ 加入者(祐善寺)

へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

納涼の集い
スタッフからの
メッセージ



松島 利子

七月二十四日に祐善寺で行なわれた初めての納涼祭に実行委員の一人として参加させていただきました。

「流しそうめん」と「焼肉」をやるということで、どれくらいの方が集まってくれるのか、少し心配もありましたが、楽しみでもありました。

材料を刻む時間やそうめんをゆでながら加減を見ている時間、焼肉を焼きながら、班がちがう檀家の方達とあれこれ話をするこの一瞬一瞬がとても大事なコミュニケーションの時間だと感じました。



流しそうめん大会も、すごい人気！

流しそうめんも子供からお年寄りまで感動し

ながら、めんを箸ですくい自然の竹で作った器にだしを入れ食べた瞬間は、美味しさと楽しさの二倍の感動を味わうことができました。

世代のちがう人達が協力しながら、美味しい物を味わうことができたこの時間は、あらためて人と人との関わりの大切さを考えさせてくれる時間でもありました。是非とも又、集まって楽しめる機会があれば嬉しいと思います。

本当に楽しいひとときをありがとうございました。

野村 浩一

猛暑が続く真夏の昼下がり、須彌壇の前で足のしびれを我慢しながら、一生懸命正信偈のお勤めをする子供たち。どこを読んでいるのか解らない小さい子に、「今ここだよ」と優しく教えて下さるご住職。その様子をにこやかに見守る檀家の方々。

たくさんの笑顔と笑い声があふれた今回の「納涼の集い」は、皆がお寺を身近に感じることができた一時であつたと思います。

このような集いがこれからも定期的に開催されて、祐善寺にお参りする機会がふえてゆけば、子供たちにはもちろん、私たちに

寺がより身近な存在となつてゆくのではないでしょうか。

ご住職をはじめ、役員、実行委員の皆さんのおかげでいい経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

野村 孝治

「祐善寺納涼の集い」で老若男女が集い、楽しい一時を過ごせたことは、有難い事だなと感謝しております。実行委員の一人として参加させて頂き、皆さんに喜んで頂いて、大成功に終わることが出来ました。この成果が来年に繋がる事を願います。

子供達がお寺、ご先祖様に慣れ親しむ機会を頂けた事にも感謝です。私達の子供の頃は、お寺、神社でよく遊んだものです。今の子供達はどうでしょう。ゲーム等家で遊ぶことが多い世の中です。今回のような企画も今の時代には特に必要なことと実感しています。

今後祐善寺を中心とした和合の活動が増え、益々親しみのある祐善寺になることを願っております。

上野 晴美

初めてのつどいのお世話係で、準備をしても大丈夫かなあ、と心配でしたが、沢山の門信徒さんの姿にホッとしました。

本堂での正信偈のおつとめでは、孫とおじいちゃんが並んで座ったり母のひざに座る子どもたちや仲睦まじく手を合わせる姿を見てみると、こうして、み仏の心が子どもたちの心に伝えられていくのだと感じました。私も子どもの頃、両親と一緒に仏壇に手を合わせていたのを思い出しました。

境内に出ると、バーベキューや流しそうめんで空腹を満たし、ピンコ大会で盛り上がりました。このように、老若男女が一緒に同じ時間を共有することはとても大切な事だとしみじみ感じました。



住職と並んでお子様たちも必死におつとめ!!

大変暑い日でしたが、お寺に一步近づけた日になりました。皆さまもお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。



花だより

昔は、子供も大事な働き手でした。稲刈りの頃には、明るい間は田で仕事をし、夕方からは稲掛けをしたものです。仕事が終わるのは日がとっぷりと暮れてからでした。子供でも、仕事が終わるまでは自由に出来る時間はありませんでした。

小学校四年生の頃、私は家で兔を二羽飼っていました。餌は主に土手の草でしたが、私の兎は葛の葉を好んで食べました。



ある日、稲掛けが終わってから月明かりを頼りに近くの山へ葛の葉を取りに行きました。ある程度取ってから帰ろうとした時、山の上の方からガサガサツという大きな音と共に何かが凄い勢いで走ってきて、私の直前でぴたりと止まりました。だが、フウフウツと荒い息が聞こえるだけで、葛の葉に隠れた姿は全く見えません。今にも飛びかかられるのではないかと思った私は、折角取った葛の葉さえも放り出して、一目散に逃げ帰りました。遠い遠い昔の思い出です。

八月から九月にかけて、葛が赤紫の花を上向きに咲かせます。葛饅頭がその根から取った葛粉で作られていることはよく知られていますが、その他にこの花を煎じて飲めば二日酔いに滅法よく効くと聞きました。だが、まだ試したことはありません。これを試すには、まずは二日酔いになるまで呑まなければなりません。高年齢の身にはそれがなかなかの問題であります。(軍)

おたより

函館市 中山諦子様より

前略

連日の猛暑で、熱中症や水・雨等の災害が多い年となっていますが、御住職様を始め、御家族の皆様は変わりなくお過ごしでいらつしやいますでしょうか。

お陰様で私共も何とか毎日を暮らしております。

この度は「祐善寺だより」をお送り下さいまして有難うございます。いつも色々な記事や情報を記するのは大変な努力を要する事と存じます。私もいつも何か文章をと思うのですが、何分、力不足で難しいです。どうぞ、お身体を大切にお暮らし下さい。草々

お詫び

前号(24号)4頁で上野保雄氏が執筆された「吉崎繁盛記」の中で、嫁威しの面伝説の嫁の名前を「あり清」としましたが、正しくは「清」もしくは「お清」が、通説となっております。上野氏からは「清」で原稿をいただいておりますが、編集の過程で誤った記憶をもとに「あり清」と訂正してしまつたものです。

上野保雄氏には、大変ご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。

年忌法要を

お勤め下さる!

本年度の年忌は左記のとおりでございますので、皆様にとられてかけがえのない御先祖様の年忌法要を是非、勤めて下さいませよう、お願いいたします。

- 百回忌 明治四十四年没
- 五十回忌 昭和二十六年没
- 三十三回忌 昭和五十三年没
- 二十五回忌 昭和六十一年没
- 十七回忌 平成六年没
- 十三回忌 平成十年没
- 七回忌 平成十六年没
- 三回忌 平成二十年没
- 一周忌 平成二十一年没

第8回

御和讃講座

さんげ でんぎようだいし
山家の伝教大師は

比叡山の伝教大師は

こくどにんみん
国土人民をあはれみて

災難で苦しんでいる人々を
あわれんで

しちなんしょうめつ
七難消滅の誦文には

七種の災難を
消滅させるためには

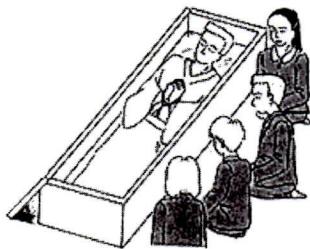
南無阿弥陀仏をとなくふべし

南無阿弥陀仏のお念仏を称える
他はない、と説かれました。

其の21

仏事 一口メモ

通夜までの心得(4)



通夜まで、遺体をお棺におさめます。これを納棺といひます。納棺はできるだけ近親者で行つた方がよいでしょう。服装は白服、または生前に愛用して清らかな服を着せます。

納棺のさい、故人の愛用品を入れることがありますが、火葬の関係上、金属製のものや陶器などの燃えにくいものは避けなければなりません。

また、湯灌(遺体をぬるま湯などで拭き、清らかにすること)があつたでない場合は、納棺の前に行ひます。通夜にお参りしますと、死装束を身につけておられる遺体を見受ける

巻き、白だび草鞋、首からは頭陀袋をさげ、手には杖を持たせるという出で立ちをいひます。
これは、人が死んで冥土といわれている世界に旅立つ姿をいふようです。
しかし、このような死装束は、民俗信仰や俗信などが重なって成立したものでいわれ、浄土真宗の教えとは全く異なるものです。

浄土真宗では、従来、人が亡くなりますと、浄土に還られると表現されてきました。つまり、私たちは、死んで冥土に旅立つのではないということです。

親鸞聖人は「煩惱成就の凡夫……正定聚に住するがゆえに、必ず滅度に至る」と語っておられます。煩悩・悩み・怒り・腹立ちの絶えない身を生きる私たちが、仏さまの大いなる法のいのちに目覚めて、生かされている身と気づくとき、必ず滅度(涅槃)に至る身と定まるという意味です。

私たちは、縁あつてこの世に生を受けました。すでに生かされてある事実として、仏になる身と約束された事実を説くのが浄土真宗です。この意味で、死んで冥土に旅立つという考えは棄てるべきです。亡き人に死装束は、全く意味のないことなのです。

一般的に行われているからといって、そうした支度をすることは、かえって死者を苦しめることにもなっています。

ことが、よくあります。死装束とは、経帷子とよばれる白い着物を着せ、頭には三角形の頭巾、手には手甲をつけ、足には脚絆を

「サンガ」より

お知らせ

報恩講御案内

十一月二日(火)

日中 午前十時

御齋 午前十一時半

逮夜 午後一時半

満座 午後六時半

布教 出雲路善公師

親鸞聖人の御遺徳を偲び、右の通り報恩講を厳修いたしますので、万障お繰り合わせの上、御家族、御近所、御法友お誘い合わせの上、何卒御参詣下さいますよう、御案内申し上げます。

ボランティア募集!!

雪囲い作業奉仕

日時 十一月十四日(日)

八時集合(午前中)

持物 鎌(カッター)、軍手、合羽(悪天時)等

昼食 用意します。

傷害保険 加入します。

作業内容

雪囲い作業は、高所での作業ばかりでなく、高所が苦手な方は、下で雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、ご協力を願います。

お申し込み

お手数ながら、前日までに寺までご連絡下さい。

皆様、ごつかかりをお願いいたします。

親鸞聖人七百五十回御遠忌 団体参拝者募集!

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要は、東本願寺において、平成二十三年三月十九日から五月二十八日まで三期に分けて法要が営まれますが、福井教区では、左記のとおり団体参拝者を募集しています。

祐善寺には十五名の団体参拝者の枠がありますので、是非、皆様からのお申込みをお願いいたします。

五十年に一度の勝縁であります御遠忌法要への皆様のご参拝を願っています。

■参拝期日

平成二十三年三月二十六日(出)

二十七日(日)

■日程

○三月二十六日

福井各地発↓比叡山・にない堂／

延暦寺参拝↓京都市内旅館(泊)

○三月二十七日

旅館発↓御遠忌日中法要参拝↓

みやこめつせ自學↓親鸞展見學↓

福井各地着

■参加費 二万三千元

■申込期限

平成二十二年十一月三十日

編集後記

★今年の夏は史上初の酷暑続きで大変な夏で閉口致しました。地球温暖化の影響だとしたらこれから未来はどうなるのでしょうか。心配もです。七月二十四日に祖先が眠る祐善寺の庭で門信徒さん、及びその子供達約七十名の参加を頂き「祐善寺納涼の集い」を開催しました。実行委員さんのお骨折でパーベキューやビンゴゲーム、スイカ割り、其他色々の遊びで楽しい一日を過ごしました。来年も実行する予定ですので、変ったアイデアがありましたらご提案下さい。

★民主党の代表選挙。つまり総理大臣を選ぶ選挙で互角の戦いだとの予想で、はらはらしながら結果を心配していましたが、あれで良かったと安堵いたしました。皆さんはいかがですか。

★中東諸国の争いはまさに戦争そのものです。これ皆、原因は自分の信ずる宗教より発しています。世界中のあちこちでこのような争いが起きています。指導者達は眞の宗教者となり平和と人類の幸せの為に立ちあがってほしいと願うは私一人だろうか。(Y・U)